

77-0515

〈スポーツ機器〉

- フランチャイズ、ライセンス
- 会社案内、カタログ、フロッピーディスクプログラム
- 営業内、新聞掲載記事
- 15万円
- 以下

## 腕ずもう界を一新させたニューマシン登場

4人で腕ずもうができるマシンがやってきた!!  
腕ずもうがゲーム感覚でできる!

### ●情報提供会社

アメリカの事業家により開発されたこのニューマシンは2年前にこの機械のコンセプトを思いつき、この1月に市場に紹介された。以来大きな反響を呼んでいる。現在、日本で、フランチャイズ加盟店を捜している。



▲ 機具はどっしりと重量感があり大会に十分通用する

### ●商品特性

#### 腕ずもうを4人でできる大変ユニークなマシン

アメリカ中西部のある事業家から、腕ずもう界を震撼させるようなビッグニュースがまいこんできた。

本来スポーツは対等な条件のもとで競うものである。ボクシングや柔道などは体重別に分けられることにより、対等な条件にしている。その一方で、バスケットボールやバレーボールなどでは、背の高い人は多少技術的な面で劣っていても身長が技術を上回ってしまうのが現状である。

このような、スポーツにおける体格からくるハンディキャップを取り除こうという願いが、腕ずもう界で実現した。

この腕ずもう界に出現したニューマシンはハイテクを取り入れることにより、握力や腕のリーチの差を完全になくし、

腕ずもう本来の腕の強さだけで正確に競える仕組みになっている。それだけではない。同マシンは左ききの人が右ききの人と対等に対戦できる役目も果たす。

大きさは188cm×76cm×110cmで重量は136kgのがっしりしたボディ。これなら腕ずもう大会でも十分通用する製品であろう。

このマシンの使い方は多種多様だ。本来の1対1で行う腕ずもうのほかに、2人ずつペアになって競うという、いわばゲームのようなこともできるシステムになっている。これは4つのレバーからなる構造が実現させたもので、腕ずもうの楽しさを今までの数十倍にもふくらませてくれた。

試合のやり方は簡単で、敵と向かい合って、レバーを握り、最初にレバーを下まで引いた者が勝ちである。また、レバーが下まで下がると、勝利のベルが鳴るという遊び心いっぱいのおもしろさになっている。

### ●市場性・将来性

#### アメリカで爆発的人気。日本で売れるのも時間の問題

日本のゲームセンターでは、機械を相手に力競べをする腕ずもうゲームマシンが大人気だ。機械を使った腕ずもうもゲームとしてすっかり定着した感がある。また、シルベスター・スタローンの映画「オーバー・ザ・トップ」ではアームレスリングを取り上げているが、日本でこの映画がヒットしたことから見ても、日本でも腕ずもうの楽しさが見直されていることがわかる。

アメリカではすでに、このマシンを使ったアームレスリングコンテストが大手3ビール会社によって開催されることになっている。さらに、1988年にはラスベガスで行われる「ワールドチャンピオン大会」にも、このマシーンが使用される予定だ。

この機械の人気に伴い、販売方法もなかなか大がかりになってきた。フランチャイズ加盟店を設けて販売すると同時に、顧客の便を考え、5年間のリースも取り扱っている。

このマシンを設置した学校やバーで早くも大変な人気だ。

アメリカでこのアームレスリングの人气が急上昇していることからいっても、いずれ日本にもこのニューマシンが上陸、アームレスリングフィーバーが起こるのもまちがいないといえよう。大きな期待がもたれるところだ。